



③別の田んぼでは、水路から魚が田んぼに登れるように魚道が作ってありました。これは誰が作ったのでしょうか？



②水路でつかまえた小魚を田んぼへ放します。田んぼは小魚が大きく育ったり繁殖したりする命のゆりかごなのです。



①地域の小学生と農家が一緒に生きもの調査。どんな生きものが田んぼや水路にいるかを調べます。



④この魚道は「たかしま生きもの田んぼ」に参加する農家をはじめとする地域の農家が専門家と一緒に知恵と力を合わせて作った手づくりの魚道です。無農薬栽培の田んぼに小さな魚が上れるように、高島市独自の工夫が施されているので、「たかしま流L字式千鳥X型魚道」と呼ばれています。

お魚がいっぱい 「たかしま生きもの田んぼ」



こんなに大きな
ナマズも！

⑥ナマズも、卵を産むために琵琶湖から水路を通じて田んぼへやってきます。



⑤中干して田んぼから水を抜くときに、どのくらい魚が育っているかを調べます。わくわくしながら尻水に網を構えると、見事に育った子ブナがたくさん！



琵琶湖の湖岸から山里まで広がる高島市の田園。そこには、トキやコウノトリのようなトツプスタ一的な生きものこそいませんが、ちよつと昔までは身近だった「田んぼの生きもの」の顔ぶれの豊かさでは全国屈指と言われています。そんな様々な生きものたちの暮らしや環境に配慮しながら、安全で美味しい、新たなお米のブランドづくりを進める「たかしま生きもの田んぼ」プロジェクトが始まっています。

多くの生きものがにぎやかに暮らし、四季折々の豊かな表情を見せてくれる「たかしま生きもの田んぼ」。その取り組みの様子をのぞいてみましょう。



稲作農家の挑戦を 生きものが評価 「たかしま生きもの田んぼ」プロジェクト

